

第 2 学年社会科学学習指導案

日 時 平成 19 年 1 月 30 日 (金) 5 校時
学 級 2 年 B 組 (男 10 名、女 11 名計 21 名)
指導者 遠野市立宮守中学校 小林一志

1. 単元名 第二次世界大戦と日本 日本の中国侵略

2. 教材について

(1) 時代要請

本単元は、学習指導要領の歴史的分野における内容(8)「二つの世界大戦と日本」-カに基づいており、「世界の歴史を背景にして昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の歴史のあらましと大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させること」を主なねらいとしている。その際、世界恐慌などによる経済混乱と社会不安の広がりを背景に軍部が台頭して大陸での勢力を拡張したことを理解させるとともに、その際、我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きに着目させて考えさせることが必要である。

平成 18 年度の学習定着度状況調査(2 年)においては、本単元に関わる調査問題はないものの、歴史的分野の観点別でとらえた際に、当管内では、3 観点の中で「技能・表現」が落ち込んでいるのが現状である。

基本的な資料の読み取りの力はあるものの、必要な資料を選択したり、いくつかのデータから考察したり、問題点やその後の動きについて予測したりといった、資料活用の本質的な能力が育っていないことがうかがえる。このことから生徒の学力向上にかかわる視点として「資料活用能力の育成」をとりあげ研究を進めていきたいと考えた。

本単元は、学習を進める上で、統計資料や図・写真など多くの資料を活用するため資料活用能力の育成にふさわしい単元である。

(2) 単元全体の教材観

第一次世界大戦後に国際連盟が成立した。再び大きな戦争が起きないことを、誰もが望み期待したが第二次世界大戦は起こってしまった。多くの国民が苦しい生活を余儀なくされ、日本が侵略した朝鮮・台湾、中国や東南アジアでは、同じアジアの国々の諸国民に対してさまざまな苦痛を与える結果となった。沖縄戦、本土空襲、長崎・広島への原爆投下を経てポツダム宣言を受託し、戦争が終結する。我が国にとっても世界の国々にとっても激動の時代と言える。

そこで、「なぜ、人々の平和への願いが届かなかったのか」「なぜ、戦争が再び起きたのか」を多面的・多角的にとらえ、その原因について理解し、考えを深めるよう指導を進めたい。

特に世界恐慌という経済的な出来事が世界に広がり、政治問題へと展開し、ついには戦争へと結びついたという歴史的事象の流れは、生徒が社会的な事象を多面的・多角的に捉えたり、政治と経済との関連を考えたりする上では大きな意義があると考えられる。

また、日本国憲法で述べられている世界の諸国民とともに「国際平和を希求する」精神を考察し、日本国民、一人の人間として、再び戦争が起きないように何がしているか、具体的に考え行動する態度を身につける上で、重要な単元である。

(3) 生徒について

生徒たちは、地理的分野よりも歴史的分野の学習に興味を持って学習している。教師の問いかけに男女どちらも平均して反応し、社会科への取り組みや意欲が高いクラスである。しかし、平成 19 年度学習定着度調査においては、3 つ観点の正答率は、いずれも県平均をわずかに上回っているが、能力的には高低の差が大きく、平均が少ない。また、授業時の発言では、知識を問うような発問に対しては瞬時に答えようとするが、事象の原因や影響について問うような発問に対しては答えられない場面が多い。資料活用能力についても、資料から全体の傾向や変化の特徴を読み取るなどの「具体的な読み取りによる情報収集能力」は育ってきているが、問題の要因や背景の追究といった「関連的な読み取りによる分析能力」や様々な角度からの考察、共通性や特殊性を読み取る「総合的な読み取りによる考察能力」の力は弱い。したがって、社会的な事象を資料から関連的に総合的に読み取る活動を大切に学習活動を展開していきたい。

(4) 単元全体の指導観

本単元は、世界の歴史を背景にして、昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の歴史のあらましと大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させるために、統計資料や図、写真など多くの資料を活用すると共に、本研究の主題である資料から社会的な事象を関連的に・総合的に読み解く活動を重視していきたい。また、学習の展開としては、問題解決的な学習を展開し、予想を立てることを大切に、調べ学習を通して、知識の交流が行われ、さらに多面的・多角的な考察へ深まるものとしたい。

特に本時では、資料活用能力の中でも、「関連的な読み取りによる分析能力」や「総合的に読み取りによる分析能力」を高めるため、複数の資料を提示し、意図的に活用させ、問題解決に向けて生徒それぞれの考え方を大切にしたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

- ・昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動きなどを、東アジア、欧米諸国との関係を背景に、多面的・多角的に追究し、理解するようにする。
- ・大戦が人類全体に惨禍を及ぼし、国民生活を大きく変えていったことに気づき、平和な生活を築く大切さ、国際協調と国際平和の実現に努めることの意義について考えることができる。

(2) 評価規準

【 社会事象への関心・意欲・態度 】

昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の歴史のあらましと世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究している。

【 社会的な思考・判断 】

昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の政治・外交の動き、アジア諸国との関係、欧米諸国の動きを通して、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過及び戦争の影響を多面的・多角的に考察し、公平に判断している。

【 資料活用の技能・表現 】

昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の歴史のあらましとそれに関わる文献・映像・統計・グラフ、調査の結果などの様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究や考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。

【 知識・理解 】

昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の歴史のあらましを世界の動きと関連させて理解し、その知識を身に付けている。

4 単元の指導計画・評価規準（11時間扱い）

時間	学習内容	評価規準			
		社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的な事象についての知識・理解
1	世界恐慌とファシズム	世界恐慌に関心を持ち、起きた原因や各国の対応策を意欲的に調べようとしている。			世界恐慌が起きた原因と各国の対応策を理解している
2			ファシズムが指示された理由を、国内の社会状況や世界の動きから判断している。		ファシズム国家が戦争への道を歩み始めた事を理解している。
3	日本の中国侵略 【本時】		日本が満州侵略で世界恐慌を乗り越えたことやその功罪について多面的にとらえ、自分の意見を持つことができる。	日本が満州を侵略した理由を複数の資料から読み取り、考察している。	
4	軍国主義のたかまりと日中戦争			軍部が台頭し、戦争につながっていったことを年表から読み取り、考察している。	五・一五事件や二・二六事件の学習を通して日本の軍国主義に対して理解を深めている。
5 6	戦争のための生活統制	内戦から抗日民族統一戦線の結成までの経緯について意欲的に調べようとしている。	戦争加害の側面と国家総動員体制に代表される国民の犠牲の両面について考え自分の意見を持っている。	当時の写真等から国家総動員体制の下での国民生活がどのようなものであったかを読み取りまとめている	
7 8	第二次世界大戦のはじまり	ユダヤ人やかれらを援助するものがなぜ弾圧されるのか考えようとしている。		資料をもとに第二次世界大戦中の様子について、図で表している。	第二次世界大戦が始まってからわが国が参戦するまでの経緯を理解している
9	太平洋戦争と東南アジア		我が国が太平洋戦争に進んだ経緯を理解し、考えを深めている。		
10	戦時下の国民生活と植民地			戦争の悲惨さを調べて資料から読み取り、考察している。	戦争がアジア諸国と我が国に多大な被害を与えたことを理解している。
11	軍国主義の敗北	沖縄戦、原爆投下などの学習を通して、戦争の愚かさ、平和を守ることの大切さを実感しようとしている。	日本が沖縄戦、原爆投下という大きな犠牲を払うまでして戦争を継続した理由を考えている		

5 本時の学習

(1) 指導の構想

導入

「日本の輸出入の変化」のグラフの読み取りから、日本も世界恐慌の影響を受けたことやそれを乗り越えたことに気づかせ、『日本は、世界恐慌をどのようにして乗り越えようとしたのか』という学習課題を生徒から出させる。

展開

前半では、まず学習課題に対して予想を発表させ、学級全体の仮説をたて、課題解決への意識を強く持たせる。その上で、まず、教科書・資料集の調べ学習から、日本は、世界恐慌を打開するために中国の満州を侵略したことに気づかせる。そして、なぜ満州を侵略したのか、その満州の重要性について、資料を活用し、自らの問いに対する事実を追究していく。日本の満州侵略の結果、輸出入は再び活発となり経済は回復した。しかし、日本のとった行動は、当然、国際社会に受け入れられず、日本は孤立していったことも理解させる。

終末

日本は、満州侵略という政策で世界恐慌を乗り越えたという事実に基づいて、日本の満州進出のプラスとマイナスの面を踏まえ自分の考えをまとめ、意見を交流し合い思考が深まるようにしたい。

(2) 本時のねらい

- 日本は、世界恐慌を乗り切るため、満州事変を引き起こして満州を実質的な植民地として、その後、国際連盟を脱退し、国際社会において孤立していったことを理解させる。

(3) 評価規準

評価規準	具体的評価規準		努力を要する生徒への手立て(C)
	十分満足している(A)	おおむね満足している(B)	
【技能・表現】 日本が満州を侵略した理由を複数の資料から読み取り、考察している。	日本が満州を侵略した理由について、複数の資料をもとに地理的要因や日露関係など歴史的背景を関連づけて読み取り、総合的にまとめてノートに記述している。	日本が満州を侵略した理由について、複数の資料をもとに土地の広さ、作物や資源の豊かさなど地理的要因を関連づけて読み取り、総合的にまとめてノートに記述している。	満州の魅力を具体的に資料で示す。地図帳で位置や広さも確認する。
【思考・判断】 日本が満州侵略で世界恐慌を乗り越えたことやその功罪について多面的にとらえ、自分の意見を持つことができる。	日本が満州を侵略し、世界恐慌を乗り越えた事実について、多面的にとらえ、他の方法にも目を向けながら考え、自分の意見をノートに記述している。	日本が満州を侵略し、世界恐慌を乗り越えた事実について、日本以外の立場も含めて考え、自分の意見をノートに記述している。	経済が回復したこと、国際連盟脱退等々に関する資料に注目させ、考える手がかりを与える。

(4) 本時の展開

段階	学習活動 学習内容	指導上の留意点 (主発問、手立てや配慮事項)	主な資料と評価
導入 7分	1 1927年から1938年の日本の輸出入のグラフを読み取る ・日本が世界恐慌の影響を受けて輸出入が減ったことを読み取る。 ・その後、1931年以降から輸出入が上昇したことをとらえ、日本の経済が回復していったことを読み取らせる。 2 学習課題を把握する。	「資料の表題」「縦軸と横軸」は全体で確認させる。 グラフの輸出入の変化を見て、気づいたことを発表してください。 ・1929年から、貿易の輸出入が減った。 ・1931年以降、貿易の輸出入が上昇してきた。 読み取ったことを、世界恐慌による日本の影響に関わらせて発言させる。	産業の変化のグラフ
展	3 学習課題について、予想する。 ・既習内容を基に予想を立てる。(6分) ・ノートに予想を記述し、交流することにより、追究の視点を明確にする。	日本は、どのようにして世界恐慌を乗り越えたのか予想してみよう 考えが出てこない場合、前時に学習してきた国の政策で日本にもあてはまりそうな政策を述べてよい等、支援する。 ・アメリカのようにニューディール政策を行った。	

<p>開 33 分</p>	<p>4 課題を追究する (1) 日本の政策 ・予想に基づいて日本の政策を調べる。 (10分)</p> <p>(2) 満州の重要性 ・満州の重要性について各種資料を活用して調べる。(12分)</p> <p>(3) 孤立する日本 ・満州事変後の日本のとった行動について理解を深める。(5分)</p>	<p>・イギリスやフランスのようにブロック経済を行った。 ・イタリア、ドイツのように他国を侵略した。</p> <p>日本はどんな行動をとったのか、教科書や資料集を使い、調べてノートに記入してください。 発表する。 日本は、中国の満州を侵略し(満州事変) 満州国を建国したことを事実としておさえさせる。 日本は、イタリアやドイツのように他国を侵略しようとしたことを理解させる。</p> <p>ところで、なぜ『満州』だったのでしょうか。満州を手に入れると何かいいことがあるのでしょうか。 満州の地図を掲示し、イメージを持たせたい。 生徒のさらなる追究意欲を喚起する。 ・土地が広いのでたくさん作物がとれる。 ・石油や石炭などの資源が多い。 ・土地が広いのでたくさん人が移り住むことができる。 等々生徒に予想させる。 「なぜ満州を手に入れたのか」について、その理由を、様々な資料を活用して調べてノートにまとめましょう。 満州を侵略することによって様々な問題が解決されることを理解させる。</p> <p>歴史の流れを説明し、板書する。(ここではあまり時間をかけないよう、教師側の説明にしたい。) リットン調査団の勧告と国際連盟脱退について理解させる。</p>	<p>教科書 P162、163 歴史資料集 P146</p> <p>満州の地図 中国の資源、農業 「満鉄調査部満蒙要覧 1930」「列国国勢要覧 昭和8年版」 満蒙開拓青少年義勇軍 ・調べたことをノートに記入することができたか。 (資料活用の技能・表現)</p>
<p>終 末 10 分</p>	<p>5 学習課題のまとめをする</p> <p>6 今日の授業を振り返る。</p>	<p>課題に対する結論をまとめてください。また、日本がとった政策について、自分はどう思うかについても記入してください。 経済の混乱を中国の満州侵略で乗り切ろうとしたが、国際社会から孤立してしまったことを理解させる。</p> <p>何人かに発表させ、異なる考えについて交流させ、様々な考えがあることを生徒の内面として自覚させたい。</p>	<p>・満州侵略を多面的にとらえ、自分の考えをまとめ意見を持つことができたか。 (思考・判断)</p>

(5) 板書計画

